

編集後記

日本医史学雑誌は、1941〔昭和16〕年1月28日に中外医事新報を改題して出発しました。戦前と戦後しばらくは刊行が途切れたり不定期になったりした時期もありましたが、第7代理事長の小川鼎三先生(1960〔昭和35〕年就任)の頃から刊行が軌道に乗り、毎年4号が定期的に刊行されるようになりました。創刊以来、判型は縦書きA5判でしたが、2008〔平成20〕年の第54巻から横書きB5判に変更されました。その間に医史学に関する数多くの研究論文を掲載して会員みなさまに届け続け、現在では刊行後数年を経過した巻について、学会ホームページ上で全文を公開しています。私自身は2006〔平成18〕年から編集委員長を務めてきましたが、この度理事長就任に伴い編集委員長を辞することになりました。この間に論文を投稿した査読の労をとっていただいた会員の方々、編集に協力していただいた編集委員、さらに編集事務を担当・支援していただいた中西印刷と学会事務局の担当者のお陰で、日本医史学雑誌は医史学のさまざまな分野の論文を多数掲載し、学術誌として成長することができたのではないかと考えています。深く感謝する次第です。

次期編集委員長の町泉寿郎先生のもと、本雑誌がわが国の医史学研究の推進力となり、日本医史学会がさらに発展する礎となることを願っています。

(前編集委員長 坂井 建雄)

このたび、坂井建雄編集委員長の理事長就任にともない、重責を担うこととなりました。2000〔平成12〕年から2013〔平成25〕年まで、深瀬泰旦氏、真柳誠氏、坂井建雄氏の三代の委員長のもとで編集委員を拝命しておりましたが、査読者が2人になったことなどその後の変更点も少なくありません。幸い、天野陽介委員が退任された以外は、坂井委員長のもとで編集委員を務めてこられた各位に留任していただき、また中西印刷・学会事務局のサポート体制もしっかりしていますので、何とか職責を全うしてまいりたいと思います。

我々編集委員の仕事は、学会員各位の日頃の研鑽があって初めて成り立つものです。坂井前委員長からの基本姿勢を継承して、掲載論文の質的向上に努め、また多様な価値観を排除せず、編集に当たる所存です。学会員各位の投稿を心よりお待ちしております。

(編集委員長 町 泉寿郎)